

第18回 正田悠さん（立命館グローバル・イノベーション研究機構）

日本心理学会若手の会コラムリレーでは、若手のみなさまに、ご活躍されている領域や普段の生活についてご紹介いただきます。

第18回目は、正田悠さん（立命館グローバル・イノベーション研究機構）にご執筆いただきました。

自己紹介で「私の専門は演奏科学です」というと、ほとんどの人に「えっ？」と聞かれます。英語では Performance Science と言いますが、まだまだ若い領域です。「音楽演奏」をキーワードに、心理学や音楽学、工学、医学、音楽教育…いろいろな分野の協働を目指しています。最近では周りの人も「正田さんは演奏科学の人で～」と紹介してくれるようになり、地道に布教活動(?)が進んでいるなと感じています。

私自身は「作曲家が楽譜に何を書き、演奏者がそれを読み取ってどのように演奏を構築し、鑑賞者はそれをどのように受け取るのか」というテーマで研究をやってきました。印象や感情、演奏音の音響特性、演奏者の身体運動計測、楽曲の構造との対応関係、生理反応、演奏の時系列的な評価…と気になることは尽きず、前任の学振 PD では「ハイブリッド研究者」と呼ばれていました。その採用面接の際に「一生かかっても終わらなそうだね」と言われたことも今となっては励みの言葉です（そのときは「もうダメかも…」と思っていましたが）。

この4月からは立命館グローバル・イノベーション研究機構に所属し、スポーツ健康科学部で研究を進めています。今まで知らなかった分野の風に触れ、周囲の専門性の高さにドキドキしながらも、また新たな課題に取り組んでいきたいと思います。

正田悠 (Haruka SHODA)

【ご所属】 立命館グローバル・イノベーション研究機構

【ご連絡先】 shoda@frontier.hokudai.ac.jp

【ホームページ】 <http://harukashoda.com/>

【その他】 中学時代は水泳部でした。高校では書道部、大学ではピアノサークルに入っていました。いろいろやろうとする姿勢は今の研究にもつながっているのかもしれない。

現在はロンドンの Royal College of Music との共同で “Art for Ages” というプロジェクト（科研基盤 C : <https://kaken.nii.ac.jp/d/p/15KT0095.ja.html>）にも取り組んでいます。